

JPA Communication 2015

Vol.44

――ドラえもんの夢のポケットは

必要なのか？

株式会社ユーネックス
大澤 恵司

もう20数年前になる、ようやく我々にも手が届く価格のパーソナルコンピュータが発売された、これがあればどんなこともできる夢の箱に見えた、そしてApple社のコンピュータ「Power Macintosh 6100」を手にした。そして今では手軽に使える多機能な電子端末器が溢れる時代になった。



《人類の進化は何万年》

人類が火を使った形跡は80万年前、そして世界最古の4万年前と推測される壁画が発見された、なんと途方もない時を得ているのだらう。しかし今、時の歩みが異質になりつつあるのではなか、これは地球温暖化に始まり今までにない異状気象をみてもわかる、数十年前に「ゲリラ豪雨」など耳にする言葉ではなかった、いまや自然界にまつわる耳に新しい言葉が毎年のように発せられる。

20数年前までのコンピュータは限られた人が扱う「道具」であった。けれど今では生活の中まで浸透して特定ができないまでに変化している、



年後は想像に値しない領域だからだ、おとぎ話の浦島太郎のように毎日が楽しいとしても150年は遠慮したい。

昨今発光ダイオード(LED)がもてはやされ、確かに「小さい・明るい」いいところが沢山あるのはわかる。でも私は遙か昔からある「灯火」が好きだ、オレンジ色でゆらゆらとしている「灯り」は、包み込みむかのように気持ちを和らげてくれる。これは積み重ねた歳で思っているのではなく、長い時間を経てゆっくりと人間の遺伝子情報に組み込まれているからだと思う。



そして「Sign」も遺伝子情報に組み込まれてきたひとつではないだろうか。人類がまだ言葉を交わす以前からすでに身振り・手振りを伝達手段として、何時しか言葉を発するようになり情報としてのピクトグラムがあったのではないだろうか。看板業に携わることが感慨深い思いになる、

すでにSF映画の世界が現実化している物も沢山ある。「2位じゃダメなんでしょうか？」で話題になったスパコンも現在の計算速度は10ペタ(1000兆倍を表す単位)チョー早くなっている、今まで夢とされていたことが叶うのもそう時間は掛からないだらう、この技術の進化は素晴らしい！の一言に尽きる。だがすべて両手を広げて受け入れていいのだらうか。

進化したスパコンは様々な分野で威力をみせつけ、中でも生命科学の研究の行く末には興味深いものがある。しかしこの早さに人間の脳は適合できるのだらうか、そして真理や道徳的思想が保たれるのだらうか、自然界はすでに悲鳴を上げる、いや過ちを犯すことを警告しているのかもしれない。

《寿命が200歳になる時》

科学の進歩で直せなかった病気や怪我が治癒することは誠に嬉しいことだと思ふ。しかしながら永く生きることが望まれることなのだらうか。そして誰が望むのだらうか。

私は今年で54歳になる、このままで“あと50年”と言われると満更でもないが、あと150年となると嬉しく感じられない。

50年ならば想像も追いつきそうだが、150

そして後の時代に良いものを繋ぐ義務を感じる。

今まで何万年も時を得て、ゆっくりと人間の脳に書き込まれてきた情報だからこそ人間は順応できているのではないだらうか。しかし少し早く書き込もうとすると順応できなくなり、心身のバランスが崩れてしまう。便利になり長生きもできる時代になっても、それに我々の心身がついて行かないのでは何の意味があるだらうか。

《ユーネックスにドラえもんはいない》

急ごうとするとつまずく、だから地道に一步步自分の足で歩む、そうして付いた足跡をまた誰かが踏みしめて歩く、急ぐことなどないゆっくりでいい自分の足で歩いて行く、足跡が会社の誇りになるように、確実に一歩・一歩・歩む。

自分の手で進めることは楽しく・嬉しく・達成感がある、だから弊社にはドラえもんは要らない。

余談だが電灯を「LED」と唱えているのは何故？実につまらない呼び方だ。「面白みのひとつ感じられない」、「灯り・ともしび・ネオン街？」LEDなんて言っていたら歌の歌詞にもならない、いかにも機械的じゃないか。